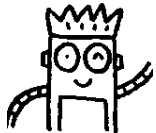


よさのあきこ
与謝野晶子は、どんな人だったの



情熱的^{はな}で華やかな短歌・詩をつくるなどして、文学や女性運動に大きな業績を残した人だよ。

与謝野晶子は1878年に、大阪府堺市の老舗の菓子店^{しにせ かしてん}の三女として生まれました。本名は水晶^{すいしょう}からとった「しょう」で、旧姓は鳳^{きゅうせい ほう}です。古典などを多く読むなど、文学少女として育ち、1900年に歌誌「明星」^{か し みょうじょう}を出版している新詩社に入り、「明星」の中心人物である与謝野寛^{よさのひろし てっかん}（鉄幹）と知り合いました。翌年上京して、歌集「みだれ髪」^{がみ}を出した翌月、鉄幹^{けっこん}と結婚しました。

歌人・詩人として活躍^{かつやく}した

その後、11人の子どもを生み、家事と子育てにいそがしい中で、短歌や詩をつくりました。彼女の歌風は、情熱的で華やかなことから、まねをする人がたくさん出ました。1904年に発表した「君死にたまふことなかれ」^{にちるせんそう}は、日露戦争中、戦場にいる弟を心配してつくった詩で、当時の兵士の母親たちの本当の気持ちが表れており、反戦詩として名高いものです。

「源氏物語」^{げんじものがたり}を2度も口語訳^{こうごやく}した

「明星」の廃刊^{はいかん}（1908年）後は、童話・小説・評論も書いたり、古典を口語訳（今の話しことばに訳すこと）したりするようになりました。特に「源氏物語」全巻を口語訳した「新訳源氏物語」を出し、さらにそれを直した「新新訳源氏物語」を出したことは、文学上の大きな業績とされています。また、「青踏」^{せいとう}の女性運動を助けたり、女子中等教育のための文化学院の創立^{そうりつ}にたずさわったり、その先生になったりしました。彼女が書いた歌集・詩集・小説集・童話集・評論集などは、数十冊にもなります。1935年に夫鉄幹をなくし、1940年に脳溢血^{のういつけつ}でたおれ、1942年5月に亡^なくなりました。